

副審のガイドライン(高校用)

2023年度版

東京都高体連サッカー専門部女子審判委員会

副審をする前に競技規則で副審の任務については最低限確認
大会要項の試合時間、交代の人数、ベンチの人数など最低限確認

0. 時間の計測の補助

基本的には主審が時間を計っているが、副審も万が一のため、また試合時間を自身でも確認、主審の補助(飲水やアディショナルタイムの表示のアピールなど)をできるようにするために、計測をする

1. 3つのラインの監視をし、ボール全体がフィールドの外に出たとき、オフサイドの反則が成立したときに合図をする

3つのライン⇒オフサイドライン・ゴールライン・タッチライン

主審から見えないため、副審の判断が絶対になる

主審と打ち合わせ

オフサイドの成立のタイミング

タッチジャッジの際どい時の旗の上げ方やジェスチャー

ゴールラインのゴールキック・コーナーキックどちらか際どい時

ゴールイン・掻き出しの際どい際の合図や確認の仕方など

2. 交代が要求されているとき

AR1もAR2も同様に合図をする。

例えば、AR2が先に気づいて合図をし、それを見てAR1が合図をして、主審が気づく場合もあるので、気づいた人から合図をする。主審が気づけば降ろしてよい

3. スローインの監視

主審と確認をして、監視部分を確認

一般的には副審は足が出ているかどうか、上がっているかを確認することが多い

4. 試合の記録の補助

審判手帳を持ち、試合の記録をとり、記録の補助をする

自分から近い位置のゴールに関しては、どの選手がゴールしたか

交代の確認

遠くてわからない場合は主審が近くに来た際に確認するとよい

5. PKの際の確認

試合中のPKはGKの飛び出しとゴールインの監視

試合終了後のPKに関しては、ゴールインのみ

6. 主審が見えない事象に関するサポート(ファールサポート含む)

主審が見えてない事象や、主審より副審のほうが明らかにはっきりと見える事象に関して合図をしてサポートする。どの程度協力するかは主審と確認。